

東彼杵 グラフ

23/23郷 中岳郷

東彼杵町の魅力探しとして始めた
「東彼杵グラフ」も中岳郷で最終回。
地域を元気にするお父さんとお母さんが
ここでもたくましく、優しかった。





地域の治安を守る みんなのお父さん

年間330日ほど
パトロールする区
長の富岡明さん。
「全く苦じゃなか」と笑った

中岳郷は堀越隊員が移住して最初に入った地区。あれから2年が過ぎたとは月日の経つのは早いものだ。引っ越しの日は今でもよく覚えている。新居へ荷物を運び入れている時、区長の富岡明さんの訪問があった。「(困ったことがあれば)なんでも言わんばぞ。毎日、見回りしとるけん」と挨拶がわりにお米を差し出し、青いパトランプ付きの軽トラックで颯爽と去る姿が格好よかった。何より、慣れない地での不安を払拭させてくれる包容力のようなものが感じられた。

後からわかったことだが、富岡さんは東日本大震災の放射能被害から避難した疎開者などを積極的に世話し、東彼杵町のお父さん的な存在として親しまれていた。安心できる温もりも納得。また、何かあった時に守ってくれるのがお父さんの頼もしいところ。富岡さんは中岳自警団のリーダーでもあった。

中岳自警団は2014年9月25日より活動を開始。その頃、町内で不審者が家へ侵入するという事件が頻発し、ついには地区内まで及んだことで正義感にあふ

れる富岡さんの怒りは頂点へと達した。そこで思いついたのが、自分たちの地区は自分で守る中岳自警団の結成だった。富岡さんが声をかけると24人が賛同してくれた。すぐに町長室を訪ねて、「こがんことがあったけん、おいたちで自警団を作る」と経緯を説明。まちづくり交付金を活用してメンバーで揃いの帽子、チョッキを作ることができた。

中岳自警団の活動は月に数回、メンバーが集まり通行車両のチェックなどを行っている。活動内容はあまり詳しくは書けないが暗号もあって本格的。富岡さんは通称“青パト”に乗ってほぼ毎晩、

地区内の37軒に声かけをしながら見回りもしている。防犯はもちろんのこと、お年寄りの安否確認や困りごとの手助けも兼ねているという。

最近では、見慣れない車が入って来た情報をお年寄りからもらうこともあり、地区全体で治安を守るという意識が芽生え始めている。「自警団による犯罪の抑止力はもの凄かよ。だから、他の地区でも立ち上げてくれんかと思っさ。それで輪ができて、町ぐるみでやりたかね。作り方がわからなければおいが教えるけん」と富岡さん。どこまでも頼れるお父さんだった。



年1回の野焼きは必須行事。忙しいなかでも多くの人が参加・見学した。



材料にもこだわった
自慢の焼きそば。手
さばきはプロ並み
だった

中岳郷の 強い 団結力。

This community
is
unified.

2月28日は大忙しの日になった。中岳自治会は昨年に引き続き、町主催のお茶畑ロードレース参加者へのおもてなしとして焼きそばをふるまった。「昨年は250人分、今年はその倍。そいでも、うちにはノンプロがおるけんね(笑)」と富岡さんが指す先には焼きそばを作る山口一弘さんがいた。鉄板の上の軽快な手さばきは食べる前から美味しいとわかる。来場者もボリュームもたっぷりの焼きそばに大満足のようにだった。

ロードレースの終了後は、ゆっくりと後片付けをしてそのまま“あがり”かと思っただが、午後からは大野原の野焼きがあると。 「どっちははしいきらんと思っただ。そいでも、どっちもせんばね」と富岡さん。

大野原に春を呼ぶ野焼きは、町内4つの地区により実施されている。大野原は自衛隊の敷地だが、火を入れるのは昔から野焼きを行う隣接する地区が担当してきた。「火ば入れたら絶対に風が出る。こいは決まるとる。この流れの火ならこっちに逃げられるとか瞬時に判断せんば。だから業者も入れられず、他所の

地区にも加勢しいきらん。地元の間し
かでけんとき」と富岡さん。

野焼きには草原の森林化を防ぐことや害虫駆除などさまざまな効果があるが、一番の大きな意味は人命のためと富岡さんは話す。「これだけの草原やけん、どこかで一度火が入れば大事になる。中に人がおれば逃げられんし、間違いなく周辺の家まで延焼する」

そばを焼いて、野原を焼いて。地区のために、町のために必要であるならばと参加した、中岳自治会には本当に頭が下がる思いだ。



大野原に春を招く炎が舞う。火の入れ方は地元で代々受け継がれてきた

協力隊 3年目の春が やってきた

堀越隊員が千綿駅で実施するファーマーズトラック市で、初回からお世話になっているという藤田家次さんを訪ねた。前区長に地区のことをもう少し聞いてみたかった。

「ももとはうちの地区はまとまりがなかったとき。年寄りさんが強かったから。私たちが40ぐらいの時、意見ば言ううつたら、なんだお前たちは若造のくせにと、

そい人たちにおさえられて」と藤田さん。その頃は女性たちにも発言権はなく、自治会の仕事では日当に差があったそうだ。「誰が考えてもおかしかでしょう。自分たちの代になった時には、こげんことなかようにしようぜ」と藤田さんが区長の頃にはだいぶ改善されてきたという。

地区がまとまったきっかけは深澤義太夫を称える祭りの復活だった。「以前は8月の盆に今の記念碑のあるところと、お墓があるところでしとったけど、せいぜい10数名しか集まらなかった。本来はみんな集まってせにやいかんとにさ。深澤さまが溜池を作ってくれたおかげで、田んぼば作っても水ば不自由にせんようにとしてくれたとのに」

深澤義太夫の偉大な功績をみんなに

知って欲しい。「深澤様中岳夏まつり」として中岳運動公園で開催するようになってからは、来場者が年々増加した。地区をあげての料理のふるまいやさまざまなイベントを楽しみに待つファンもできた。

ほかに、藤田さんは新しいもの好きという話や、奥さんの和代さんはトラックドライバの全国大会に2度も出場したことなどの話で盛り上がり、楽しい時間になった。

話を終えて、外に出るとすっかり春めいた陽気。鼻がむずむずする。マスクをしながらこの取材で歩き始めた頃を思い出した。ハウスの中は水や温度、施肥などが丁寧に管理され、ひと冬を越したアスパラが太くたくましく真っ直ぐのびていた。さあ、東彼杵町の春本番だ。



2月28日は焼きそばと野焼きのほかに、アスパラの水やりや収穫も行っていた藤田家次さんと和代さん。おつかれさまでした

Thank you
for reading this
to the end.

※中岳郷へは、町営バス「鹿ノ丸」「いこいの広場入口」のバス停を利用。

小玉隊員のデザイン、飯塚隊員の編集、堀越隊員の写真。「東彼杵グラフ」は3人の個性と経験を生かした、東彼杵町の魅力を発信する地域おこし活動のひとつとして2014年4月号より始めました。当初の取材ではもじもじしていた私たちですが、今では「次はここ(の郷)やったね」と町民から声をかけていただけることも多くなり、すんなりと地区へ入

れるようになりました。取材成果は私たちが活動していくうえで大きなプラスになりました。

これにて23の郷をすべて回ることができましたが、まだまだ知らないことばかりで、訪れるたびに発見があり、そこが東彼杵町の面白さでもあります。私たちも初めの頃の新鮮な気持ちを忘れずに、町内を歩き回りたいと思いますので、引き

続きよろしくをお願いします。

最後に、町を広報するための貴重な誌面に私たちの記事を割いていただいた町長はじめ役場担当の松添さん、岩本さんには大変お世話になりました。そして、これまでの乱文にお付き合いいただきましたみなさまへ深く感謝いたします。ありがとうございました。

東彼杵町地域おこし協力隊